

広葉樹をつくるドングリ



成熟のまぢかなドングリ

広葉樹の更新や苗木生産を効率的に進めるため、タネの豊凶を調べています。タネの豊作が訪れる間隔は樹種によって異なります。

ミズナラは、小さな雌花からドングリが成熟します。しかし、ドングリは毎年、豊作になるわけではなく、また、長く貯蔵することもできません。

自然界では、地上に落ちたドングリは森の動物たちに食べられますが、豊

作の年には食害から免れたドングリが発芽して稚苗になります。しかし、ドングリが親木から遠く離れた所まで運ばれることは希なため、更新する範囲は限られます。

林業試験場では、いつでもミズナラ林が出来るようにドングリの北海道全域における豊凶調査や貯蔵方法の開発に取り組んでいます。ドングリの成りの「よい木」は、1991年の場合、いくつかの地域で集中することがわかりました。また、ドングリをアルギン酸ナトリウムなどでコーティングすると貯蔵中の発根が抑えられ、短期間の貯蔵は可能です。

今後もドングリの全道における豊凶調査や長期貯蔵試験を進めていきます。



ミズナラの雌花



豊凶木の分布：ドングリの成りの「よい木」(●)は年によって地域的に集中します。



ドングリを電子秤と秤容器



アルギン酸ナトリウムによるコーティング